

ごあいさつ

2011年3月11日の東日本大震災から、まもなく7年の月日がたとうとしています。東北各地で復興が進み、皆が未来に向かって歩み始めている中、福島においては原発事故という未曾有の人災により復興の道のりには多くの困難があります。

現在ご支援をいただいている学生の多くは7年前、小学生でした。いくつもの困難、苦勞を抱えながらも皆様からの経済的な支えの上にたくましい精神力も育み、そして震災と原発事故を体験したことで、いのち、生きる意味、これからの生き方を真剣に考え、自ら生きる力を育み大きく成長しています。ご支援していただいたすべての皆様へ彼女たちからの感謝の思いをここにお届けさせていただきます。

東日本大震災ともしび会

代表 柴山 恵子

「いきけたよつ。」この一年間、もしび会の皆様には大変お世話になりました。深く感謝申し上げます。

皆様のおかげで進路における選択肢が広がりました。私の将来の夢は、高校の英語教員になることです。その夢を叶えるため、桜の聖母短期大学に入学し、四年制大学に編入しようかと決意しました。しかし、編入するには入学金をもう一回払う必要があり、経済的な負担でした。また、私は授業のカリキュラムなどを考慮して卓外の大学を志望しています。卓外の大学なので、実家を離れ、一人暮らしをする必要があります。このような事を考慮している内に本心に編入を希望してもいいのだろうか悩んでいました。しかねども、もしび会のご支援していただく事が決まり、心置きなく編入を目指せる事が出来るようになりました。

現在、私はさらに編入先の大学の幅を増やすため、英検一級に挑戦しています。毎日の通学時間を常に英単語を覚える事に費やしています。休みの日は、時々、映画などを観たくなったりもしますが、その気持ちを抑えリスニングや英語のエッセイを書くことに励んでいます。英検一級は夏に、準一級は秋に取る事が出来ました。アルバイトやボランティアとの両立が精神的、または身体的に辛かったです。夢のために頑張りました。英検一級はたいそう難しいですが、それを取れば、難関国立大学への道も見えてくるのではないかと期待しています。

また、私が難関大学を目指しているのは自分のためだけではありません。もしび会の皆様方に何か報いる事が出来ないかと考えた時、私が出来る事は編入の合格実績

を増やす事だけだと思いました。

現在、桜の聖母短期大学は定員の数を下回っています。しかし、もし、今まで以上に合格実績が増えれば、四年制大学に入る事を諦めきれない生徒が桜の聖母短期大学に沢山入学してくれると考えました。また、編入の制度を知らない高校生も多いと思います。よって、私が晴れて四年制大学に編入することが出来たら、積極的に合格体験談を高校生達に話したいと思っています。

そして、無事、私の最終目標である高校教員になれたら、一人一人の生徒に寄り添った進路指導を徹底します。私は、短期大学から四年制大学に編入という普通の学生よりも遠回りをしてしまった事を情けないように感じています。けれども、この経験は高校生の進路指導に非常に役立つように思われます。一人でも多くの人に編入という選択肢があるという事を広めたいです。もしび会の皆様が私に希望を与えてくださったように、私も未来の生徒に希望を届けられる教師になりたいです。

最後に、もう一度、お礼を申し上げます。もしび会の皆様からのご支援がなければ、私は夢を追いかけられない事が出来ませんでした。夢を追い求めさせてくれてありがとうございます。もしび会がある桜の聖母短期大学に入学して本当に良かったです。

キャリア教育学科 一年生



